



りえぞん

Liaison
vol.
62

Contents

令和8年1月

- 新年のごあいさつ — P1
- 第79回国立病院総合医学会 — P3
- 部門紹介「研究検査科」 — P2
- クリスマスコンサート — P3
- 奈良市民の健康づくりの推進等に関する連携協定 — P3

病院理念

私たちは、質の高い医療を提供し、地域の皆様の健康を支援することにより、信頼される病院を目指します患者第一、安心安全な先進医療を提供します。

本年もよろしく
お願いいたします。

病院敷地内に咲く「さざんか」

令和7年度 病院目標

呼吸器疾患と神経疾患を中心とした「面倒みのよい病院」の機能を高める

医療関係者の 皆様へ



「りえぞん」(Liaison)とは、フランス語で「連携・つなぐ」といった意味をもちます。

奈良医療センターは、地域の医療機関との連携を深め地域医療の推進に努めていきたいという思いで名付けました。

〈編集・発行〉

独立行政法人 国立病院機構 奈良医療センター
National Hospital Organization Nara Medical Center



新年のごあいさつ



新しい年を迎え、
お慶びを申し上げます。

国立病院機構奈良医療センター

院長 永田 清



2025年を振り返りますと、国外ではトランプ関税、戦争の継続、中国との摩擦、国内では米をはじめとする物価高騰、日本初の女性首相誕生、熊騒動、火事や地震などが特に印象に残った出来事です。国外の問題では、国によってさまざまな価値観があることを再認識し、その中で話し合いの機会や交渉力、コミュニケーション力の重要性をつくづくと感じました。新政権には医療も含めた諸問題の解決を大いに期待したいところです。

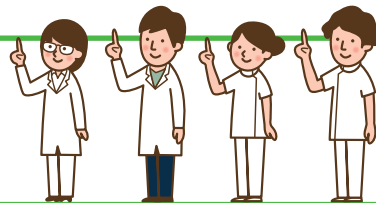
さて、国立病院機構奈良医療センターは、ご存じのように結核・神経難病・重症心身症に関する政策医療を提供することを使命としています。それ以外にも、てんかんセンター、機能脳神経外科、呼吸器内科、小児神経科など特徴ある診療を行っています。さらに地域の中絶症までの救急や県総合医療センターからの下方搬送・転院なども受け入れ、地域医療にも貢献しています。1950年、結核療養所から始まった当院ですが、このところ結核の発生は年々少なくなっているもののなくなる気配はなく、県下唯一の入院機関としての役目を今も変わりなく果たしています。呼吸器専門の内科医が多く在籍することから、慢性閉

塞性肺疾患（COPD）、アレルギー疾患、睡眠時無呼吸など呼吸器疾患の専門病院となっています。難治性てんかんの治療選択肢の1つとして一昨年から始まったてんかん外科も軌道に乗り、着実に実績を上げつつあります。同様にパーキンソン病に対する深部脳刺激療法（DBS）も高齢化社会において増加する病気の治療法としての重要性が増す中で、継続して手術を行っています。脳神経外科の中ではともに特殊な分野ですが、今後さらに発展していくであろうと考えています。神経難病や重症心身症医療も患者・家族に寄り添った医療をこれまで以上にきめ細かく、チーム一丸となって提供します。災害時の障がい者の受け入れも、関係機関と協議しながら、体制を整備していきます。年々変化を遂げる奈良県の医療ですが、当院に何が求められているかを常に問い、当院独自の方法で答えていきたいと思っています。

昨年の夏は猛暑日の連続で、ほんとうに冬が来るのかと思うぐらいの暑さでしたが、それも杞憂にすぎず、寒い毎日がやってまいりました。体調管理にはくれぐれも気を付けていただくとともに、2026年が皆様にとってよい年になるようにお祈り申し上げます。

部門紹介

✓ 研究検査科



病院で行われる検査データは、診断・治療方針の決定や経過評価に欠かせない重要な情報です。研究検査科では、検体検査部門と生理機能検査部門からなり、正確で迅速なデータ提供を行っています。



検体検査部門

外部委託会社の検査技師4名と事務職員1名で運営し、当院スタッフと連携して円滑な検査体制を整えています。

検体検査では、血液・尿・体液・組織などを分析し、診断や治療方針の決定に役立てます。日々の精度管理を徹底し、正確なデータを迅速に届けることを重視しています。

微生物検査では、耐性菌検出時のICTへの報告や、適切な抗菌薬選択を支援するアンチバイオグラムの作成など、院内感染対策にも積極的に取り組んでいます。



生理機能検査部門

当院スタッフの検査技師7名と事務職員1名が担当し、受付から採血、各種生理機能検査を一貫して対応しています。

心臓・血管・肺・脳の機能をリアルタイムで評価し、早期発見から経過観察まで幅広く活用される検査を行っています。特に当院はてんかん診療拠点機関であり、脳波検査は重要な役割を担います。通常の脳波検査で異常が確認できない場合には、2～6日間にわたる長時間ビデオ脳波検査を実施し、てんかん患者の確実な診断に貢献しています。

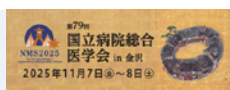
また、検査には専門的な技術が必要なため、検査ごとに「検査予約枠」を設け安定した検査体制を維持しています。一方、緊急の依頼にも対応できるよう、熟練技師による指導や勉強会を通じて人材育成にも力を入れています。

研究検査科は、これからも「医療を支える専門職」として、検査技師一人ひとりが誇りと責任を持って学び続け、より質の高い検査体制の構築に努めていきます。





ニュース・トピックス



国立病院総合医学会に参加して

薬剤部長 別府 博仁

国立病院総合医学会とは、国立病院機構の施設が持ち回りで開催される学会で、今年度は石川県金沢市で開催されました。当院からも15演題、薬剤部からは3演題発表しました。北海道から沖縄まで、日本中の施設からの発表があるため、他の施設の取り組みや研究について知ることができる貴重な機会としてなるべく参加し、他施設の職員とも交流を持つよう心がけております。

今年度も多くの演題から学ぶことがあったため、日々の業務に活かしていきたいと思います。



「奈良市における健康寿命延伸を目指した新たなCOPD対策」 プレスセミナーに参加して

副院長 玉置 伸二

去る2025年11月21日に奈良市役所にて開催されました「奈良市における健康寿命延伸を目指した新たなCOPD対策」プレスセミナーに参加し、パネルディスカッションにてプレゼンテーションを行いました。

日本における慢性閉塞性肺疾患(COPD)は、急速な高齢化により深刻な健康課題となっています。今回の新たなCOPD対策は、地域主導で早期受診・早期診断・早期治療につなげることを柱に、行政、奈良市医師会、検査医療機関、呼吸器専門医療機関、学術機関、企業が連携して進めていく取り組みです。当院には呼吸器専門医療機関の中核として、かかりつけ医の先生方と連携して早期診断、治療導入、増悪時の対応などを担う役割が期待されています。今回の新たなCOPD対策に全力で取り組み、地域医療のさらなる発展と市民の健康寿命延伸に貢献してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。



患者サービス向上委員会

クリスマスコンサートを開催しました

12月24日にクリスマスコンサートを開催いたしました。多くの患者さんやご家族の皆様にご来場いただきました。オープニングでは当院院長がサンタクロースの衣装に身を包み、ピアノ演奏を披露しました。職員有志のハンドベル演奏も練習の成果を発揮しました。音楽ユニットの2LDK'S(ツーエルデーケーズ)の皆さまにはギターやフルートといった様々な音色と素敵な歌声でクリスマスメドレーを披露していただき、皆が歌を口ずさみながら楽しみました。ご来場いただいた皆様、そしてご出演いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

